

令和4年度

三芳町立唐沢小学校



難民支援体験

第5学年

特色

- 本活動を通して、子どもたちのリーダーシップや問題解決能力、自治的能力の育成を目指し、児童主体の活動を推進した。子どもたちが主体的に活動を進められる工夫として主に以下のような取り組みを行った。
 - ①活動の目的や組織づくり、計画を子どもたち主体で立案
 - ②一人一台の端末（Chromebook）を活用した効率的な実行委員会の運営
 - ・ドキュメント：音声認識を活用したオンライン会議
 - ・スライド：決まったことをまとめ、関係職員や子どもたちへの情報共有
 - ・カレンダー：児童が主体となるスケジュールリングの作成
 - ③総合的な学習の時間の授業を、実行委員が先生役となり計画・実施
 - ④児童による各施設への協力を依頼し、服の回収箱を設置・回収

児童の感想

- 今回、服のチカラプロジェクトを通して「難民＝かわいそう」というイメージの人が多くて気がついた。実際に調べてみると、食事や学習環境など様々な点での違いがあることに気づいた。ただ、難民の人々が必死で生活しているのに「かわいそう」とだけ思われていると知ったら悲しいし傷つく。私たちはそのようなイメージが少しでも変わり、難民の人たちが前向きな気持ちになる努力をしたいと思った。

成果

- 本活動は今年度で3年目を迎えたが、新たにキャリア教育という視点を取り入れて実施した。「ただ服を集めて送る」活動にとどまらず、事前に難民の人々の生活について学習し、我々の生活と比較しながら、どのような意識をもって支援活動に取り組むべきかについて話し合った。その結果意識の高い取り組みにつなげることができた。